

## 2012 年度第 2 四半期決算説明会 サマリー(2012 年 11 月 7 日開催)

### (1) 2012 年度 第 2 四半期決算概要

SM 一基体制移行、電子材料、CR 等高収益製品の出荷減の影響により前年同期比で減収減益  
(当初予想比 売上高 ▲ 138 億円 営業利益 ▲ 7 億円)

①売上高 1,642 億円 前年同期比 ▲ 192 億円 (数量減▲178・販売価格差▲14)

②営業利益 98 億円 前年同期比 ▲ 20 億円

<要因別内訳>

数量影響	▲	25	
交易条件	+	3	→ 製品価格▲14・原燃料価格+17
コスト差等	+	2	→ 残存簿価(5%)償却終了・在庫影響等

### (2) 2012 年度 業績予想

SM 売上減や、好調なデンカ生研の検査薬ビジネスでステレン樹脂等有機系素材、電子材料の需要減を補いきれず、前年同期比で減収減益を予想

(当初予想比 売上高 ▲ 300 億円 営業利益 ▲ 50 億円下方修正)

①売上高 3,460 億円 前年同期比 ▲ 187 億円 (数量減▲184・販売価格差▲3)

②営業利益 200 億円 前年同期比 ▲ 7 億円

### (3) 今後の成長戦略

経済情勢や為替、末端ニーズなど経営環境の大きな変化に対し、成長戦略の軌道修正が必要と認識。

①生産体制と・拠点配置の最適化とコストダウンの徹底

海外生産を加速させる一方国内はハイエンド品生産へのシフトと国際競争に耐えうるコストへ

②新たな成長のドライバーとなる事業の推進(環境、エネルギー、健康・医療分野)

固有の技術がいかせるアルミナ繊維、アセチレンブラック、窒化珪素、検査試薬などの積極展開

### (4) トピックス:水力発電設備の整備

当社の競争力の源泉であり、クリーンなエネルギーによる温暖化防止や安定電力確保につながることから、既存水力発電所の増発電に取り組むと同時に、新規水力発電所の建設計画を進める。

### (5) 資本政策

6 月に 2,400 万株の自己株式の消却を行い 700 万株 19 億円の自己株式を取得

	(2012 年 9 月末)	(2012 年 3 月末)
総資産	3,953 億円	4,026 億円
有利子負債	1,157	1,180
純資産	1,716	1,727
株主資本比率	43. <sup>0</sup> %	42. <sup>3</sup> %
D/E レシオ	0.674	0.683
発行済株式数	48,188 万株	50,581 万株

## (6) 質疑応答

- 1 機能・加工製品事業が前年同期比で上期 21 億円、通期 7 億円増益となる理由  
主にデンカ生研のインフルエンザやノロウィルスの簡易検査キット等の検査試薬が伸びているため。特にインフルエンザ検査キットは販社との連携が実を結び、来年度以降の販売も期待できる。ただし通期では、DX フィルムとトヨカロンの低迷が響く。DX フィルムは昨年度下期の需要急減から、4 月以降に回復後、再び落ち込んでおり 10-12 月はプラントを停止。トヨカロンも欧州債務問題の影響などから、アフリカでの需要が減り上期途中から低調。
- 2 当初予想より下振れしているクロロプレンゴムの用途別の状況と価格動向  
他のゴムと比べると自動車用途の割合が少なく、好調だった自動車生産の恩恵が少なかったことに加え、接着剤用途が低調だった。またドル建価格の値上げが、為替で相殺され、足元のブタジエン価格下落から競合他社の値下げ競争も激化。厳しい状況は継続するだろうが、石灰石と水力発電という自社資源を持つ安定性、優位性に加え、さらなるコストの見直しを行っており、利益の大きい下振れは防げると考えている。
- 3 蛍光体の 2013 年度モデルTVへの採用状況と照明用途の状況  
国内メーカーへの販売が急減する一方海外メーカーのコスト重視傾向から、当社蛍光体の出番が少なくなり、13 年度モデルへの手ごたえもよくない。照明用途は長期的スパンで開発中。
- 4 電子材料主力製品の上期から下期に向けた見方  
シリカは昨年度下期から多少回復後、7 月以降再度在庫調整に入った。特に 9、10 月は急激に落ち込んでおり、回復は年明け以降と考えている。電子包材は、スマホが好調だが PC は低調など、まだら模様。パワーモジュール用 ANP・アルシंकは、中国の新幹線事故以降発注が止まっていたが、足元少しづつだが回復の兆しあり。窒化珪素や接着剤は着実に伸びている。
- 5 有機系素材の下期の収益の見方  
クロロプレンは上期があまりにも悪かった。下期は出荷が増えると考えているが、定修があり利益は横ばい、稼働率は 8~9 割。ステレン系は、シンガポール製品の需要低迷と SM 原料のベンゼン高騰により、スプレット悪化。このためセグメント全体で低調。
- 6 中国との関係後退によるステレン系樹脂への影響  
連結海外売上高比率 3 割のうち、中国は半分を占めるが、今のところ直接的な影響は大きくない。
- 7 クロロプレンゴムの海外生産の具体的な動き  
具体的にはない。自社でやるか、他社と提携するかなど選択肢あり。円高に対応すべく国内生産だけに限定せず、海外生産も検討している。
- 8 クロロプレンゴムの地域別出荷の強弱と米国市場の状況  
全体的に低調だが、中国は思ったほど落ちていない。米国向けは着実に伸びている。
- 9 日本カーバイド工業との業務提携の効果は。  
補完的な関係にある電子部材に期待しているが、具体的な効果がでるのは来年度以降になろう。
- 10 水力発電所の発電能力を 10%増強した場合のメリット  
高い購入電力が安い自家水力発電に置き換わるので、年間 1~2 億円程度期待できる。

以上